

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 宿泊施設
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

日本初の重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿のにぎわいからほんの少し離れた街道筋にある民宿。通りから見ると平屋と見まがうそのたたずまいは、木曾には多く見られる懸け造りの二階建て。格子窓、くぐり戸、吊り灯籠、軒行灯、飾り棚など伝統とモダンが調和する木の温もりが、旅のひとつときをより一層引き立てる。また、宿泊客同士がつながる場としての役割を果たしている。

■施設概要

所在地：長野県木曾郡南木曾町妻籠恋野902-1

施設種別：民宿

運営主体：家族経営（原和子氏ご家族）

構造・階数：木造・2階

部屋数：1階に4部屋，2階に1部屋。

運営開始：約45年前（1976年頃）

訪問日：2021年3月26, 27日

訪問者：荻原雅史，森野耕司

お話を伺った方：店主 原和子氏

（こちらの記録をベースに，以下にまとめる）



写真2. 敷地周辺 googlemapより

JR南木曾駅から車で5～10分程度の場所に御宿大吉がある。

1. 妻籠宿について

妻籠宿は中山道42番目の宿場であり，長野県木曾郡南木曾町にある。中山道と飯田街道の追分に位置し交通の要衝であった。江戸時代に中山道沿いに宿場を作る時に宿寄席をやった場所であり，周りから人が寄せ集まり宿場になった場所である。また，妻籠宿は町並みの保存を重視しており，三原則として妻籠の人たちは町並みを守るために，家や土地を「売らない・貸さない・壊さない」を定めて実施している。



写真3. エントランス

中山道を彷彿とさせるような様々なアイテムを飾っている。

参考文献

- 1) 御宿大吉 HP <http://www17.plala.or.jp/daikiti/>
- 2) 妻籠観光協会 HP <http://tumago.jp/index.html>
- 3) 公益財団法人 妻籠を愛する会 <http://tumagowoaisurukai.jp/>



写真 4. 重要伝統的建造物群についての看板

重要伝統的建造物群保存地区に指定されている妻籠宿の概要について書かれている。



写真 5. 妻籠宿の写真

昔と変わらない町並みが残っている。



写真 6. 食堂

食事はすべて食堂で提供される。

2. 運営概要

1) 開業経緯

店主（原和子氏）の両親が45年前に御宿大吉の運営を開始した。開業前、妻籠出身である原氏の父は、東京で別の仕事に就いていたが、妻籠にいた原氏の祖父に「妻籠がブームになり大勢の訪問客が来ているので民宿をやらないか」と持ちかけられ、地元に戻り御宿大吉を開業した。その時に建てられたのが現在の建物である。宿の名前は、原氏の曾祖父の名前の「大吉」から取った。現在は原氏のご両親から継いでおり、原氏の息子夫婦と一緒に経営をしている。宿は自宅を併設している民宿タイプであり、現在息子夫婦の子供も含め7人で暮らしている。

2) 息子夫婦へ継承・後継者問題

15年程前に原氏の父が体調を崩し宿の業務の継続が難しい状況になったため、妻籠をでて、料理屋に勤めていたご子息に戻ってきてもらい、営業を続けている。

45年前の開業当時は、53軒の宿泊施設があったが2021年では9軒程度である。妻籠宿内で次の世代が減少しており、後継できない宿泊施設も多くなってきている。

3) 価格設定

周辺の宿も含め、宿泊代の価格基準は特に決まっていはいないが、開業時と比較すると、値上げをしている。妻籠外のホテルを含め、周りの状況をみながら価格設定をしているが料金設定は宿泊施設ごとでまちまちとである。

3. 運営状況

1) 昔の客層

妻籠宿は1976年に伝統的建造物群保存地区に指定され、その当時は賑わっていた。廊下でもいいから泊めて欲しいという宿泊客もあり、相部屋は当たり前だった。雑誌で妻籠宿が特集されたのがきっかけで若い人も多く訪れていた。常連客も多く、宿泊客同士がつながる場になっていた。

2) 現在の客層

2019年度（covid-19第1波以前）は宿泊客の90%が外国人の方であった。外国人の方は1年前から計画的に

予約を取るので、天候や予定に合わせてくる日本人は予約が一杯で泊まることができない状態だった。しかし、突然キャンセルが出た時などは、外国人宿泊者の中に日本人宿泊者が1人いるということもあった。

3) 定員数に対しての稼働率

現在は、基本、一部屋2名、五部屋で稼働している。covid-19により、団体での宿泊客と受け入れる回数は減少しているが、日本人宿泊者の場合は1,2階の客室を利用して団体で10名以上の宿泊客をとる場合もある。外国人宿泊者の場合は、身体が大きいので、一部屋に2名宿泊するのが難しい時もあるので、外国人での宿泊の場合は8名程度、1階のみの利用としている。

妻籠宿のブーム最盛期は観光客が100万人に達した時期もあり、昔は常連さんが1日に約20名が宿泊していた時期もあった。御宿大吉の場合は、収容人数が限られていることや常連宿泊客が多かった理由から、特にブーム最盛期の影響は受けていない。しかし、季節毎の観光客数には変化があり、冬場は比較的宿泊客が少ない。冬季の訪問者が少ない理由として、妻籠に来てもお店がやってないなどがある。インバウンド前の日本人観光客がメ



写真7. 御宿大吉の夕食

夕食は基本的に季節ものを提供している。信州特産物を使用する大吉オリジナル料理。外国人は身体が大きいので、食事処で10人での食事は難しい。そのため、1階4部屋のみを宿泊利用とし、8人までと人数制限をしている。(団体予約の場合は2階を使用する場合がある。)

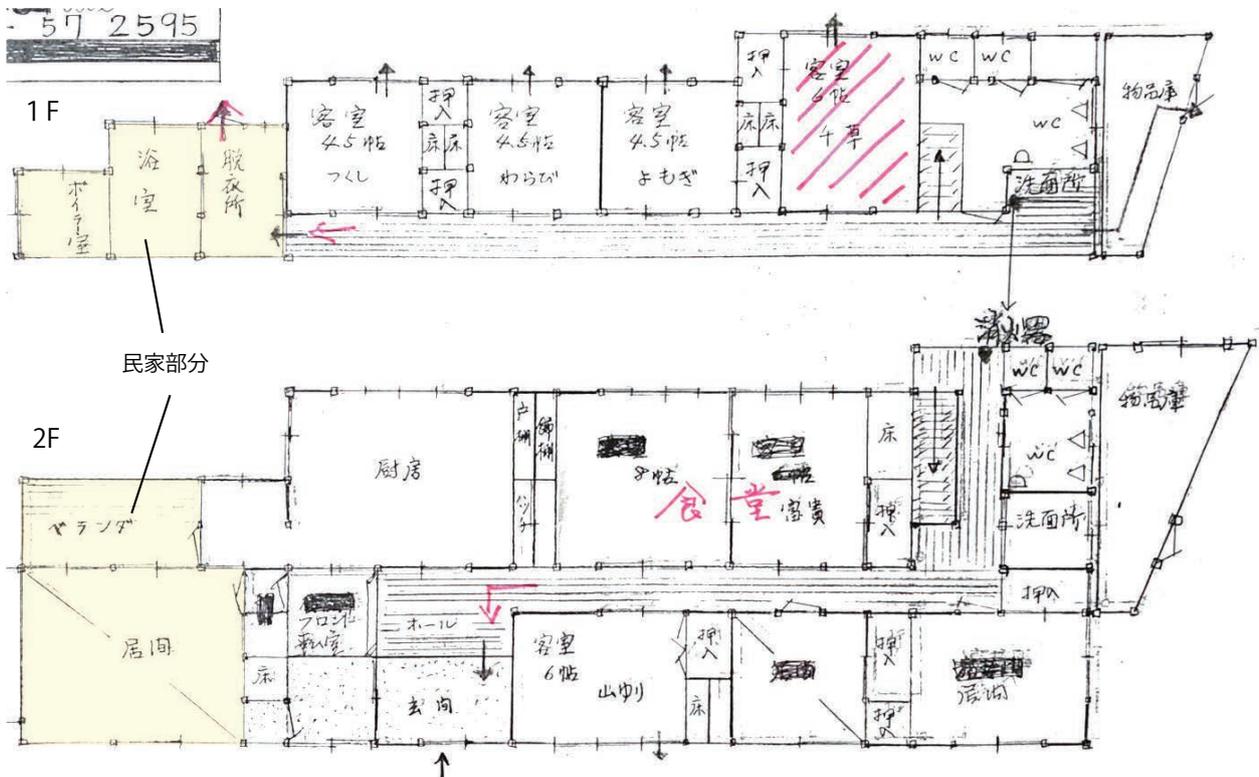


図1. 御宿大吉 平面図 (避難経路図参照)

上部が1階、下部が2階の図面。一部屋あたり4.5畳,2階左側は家族が住む民家になっている。



写真 8. 御宿大吉の部屋

一部屋 4.5 畳で大人 2 名用。布団を 2 枚敷くだけでほぼ埋まる。



写真 9. 御宿大吉の食事会場

食事会場は部屋とは違って障子で仕切られている。



写真 10. 妻籠教育委員会発行の脇本陣割引クーポンや観光案内パンフレット

御宿大吉のエンタランスにて配布。

インだった頃は冬の訪問者が少ない分、夏場に稼ぐような形だった。

4) 宿泊者の動機

日本人の宿泊者は、名古屋や関東から来る方が多く、3月に限っては若い人が多い傾向がある。理由は様々だが、高校生だけで関東から来る宿泊客や、大学生のサークル活動など団体の宿泊客も多い。他には、中山道を歩くことを理由に御宿大吉を訪れる方も中にはいる。

外国人宿泊者は必ず色々な場所を歩き回るような旅行予定を立てている。妻籠を経由として使うことも多くあるので、連泊する方は多くない。

5) 宿泊者への食事

できるだけ信州特産の食材を種類多く食べてほしいという思いから、食事は、季節に合わせた特産食材を多く使用した料理を提供している。近年、外国人宿泊客が増加しているが、外国人はベジタリアンやグルテンフリーなどの食事に好みが変わりやすい。外国人宿泊客に食事でストレスを感じてもらいたくないので、外国人宿泊客の連泊はなるべく控えるようにしている。

6) covid-19 による変化について

covid-19 の影響で、宿泊客の 90% であった外国人利用者が全くなかった。現在でも、まだキャンセルが続いている状態。2021 年 3 月までで、コロナの影響により約 1,500 人からキャンセルがあった。代わりに国内の宿泊客が来てくれると思っていたが、GoTo トラベルキャンペーンに参加していないので、集客は伸びていない。GoTo トラベルキャンペーンではないが、長野県の「小さなお宿応援キャンペーン」には参加しており、宿泊料金が 1 万円以上の宿だと 5,000 円の割引、宿泊料金が 1 万円未満の宿だと 2,500 円の割引があるキャンペーンだが、長野県独自の取り組みになっているので、県外の方は利用できない。御宿大吉は 5000 円の割引が適応され、前回期間（2019 年末～2020 年 1 月末）のキャンペーンは 100 名分の割引を使用した。またキャンペーンは再開したが、反響はそれ程大きくはない。

また、その他の取り組みとして妻籠宿内の観光名所である「脇本陣」の割引クーポンが宿泊客限定でおいてある。妻籠の教育委員会が発行しており、宿泊と宿場内観光活性化を関連づけて行っている。このクーポンは、妻籠宿内の各宿泊施設においてある。

7) 苦勞している点

宿泊者が来ないことに苦勞している。回転資金が減少してきている。家族でお金のやりくりをしているが、このまま続くと厳しく、銀行に借りても返せる補償がない状態が続いている。また、助成の申請などでも、行政との連携や仕組みの複雑さに苦勞している。国民年金のやりくりも大変な状況。

8) 独自のアピールポイント

大吉の宿泊者がつながっていているところが特徴となっている。携帯がなかった時代には宿泊者同士が写真を送るために住所を聞くところから始まり、「来月の○日に大吉に行くから大吉で会おう」などと宿泊日程を合わせるような会話が常連の宿泊者同士で発展し、大吉で知り合って結婚した人が9組いる。昔は夜に必ず、初めての宿泊者を常連の宿泊者が誘いトランプをしていた。今でも常連の宿泊者がおり、通算400泊ぐらいしている方もいる。

外国人宿泊者にとって日本の伝統的な建造物に泊まるのが一番の魅力になっていると思われる。

4. 立地環境

1) 観光協会との連携

インターネットがなかった時代は観光案内所経由で宿泊客の紹介・予約の問い合わせがよくあった。当時、はがきなども連絡手段の1つとして駆使していた。昔は妻籠宿の経営者もやる気があったので、紹介や予約がされない場合は案内所に要望をいう人もいたが今では、経営者の高齢化も進み、紹介や予約を断る人が多らしい。

現在、御宿大吉ではインターネット・電話・旅行会社で予約の受け付けをおこなっている。

2) 地元の人との交流のポイント

同業者でない地元の方との交流は、公民館での交流活動を行っている。主な活動として、原氏はそば打ちの活動に約30年間、参加している。最初はそば打ちの先生もいないところから始まった

が、今では新しい人に原氏が教えている。公民館での活動は住民の希望者のみで行っているので少人数での交流になる。

3) 妻籠宿の宿泊施設について

宿泊施設が後継者問題などで減少しており、人と呼ぶためには妻籠内で宿泊施設を増やさないといけないと考えている。旅行会社で団体20名の宿泊がある場合、御宿大吉には定員の関係で10名しか泊められないので、分宿して宿泊をしていただく。近くの民宿と協力してやっていたが、その民宿が閉業したため、旅行会社の団体客が全てキャンセルになる事態もあった。分宿するには宿泊施設同士の距離が近くないと勝手が悪く、団体客が取れないということになると、そのお客さんはホテルなどに流れてしまう。

4) 妻籠宿内状況

このままだと継承者がおらず、お土産屋なども含め多くの店舗が閉業する可能性が高い。妻籠宿内には食事処も少なく、閑散期でもそば屋ぐらい一軒開けておかないと宿泊者も増加していかない。夜間、お店が開いていないのは、宿泊場所の不足も影響している。

また、空き家を妻籠宿外の人に「貸さない」規制が厳しくある妻籠宿内で地域外の人に空き家を貸してもらうためには、妻籠地域周辺に何年か住み、地域の方と信頼関係を築くことで解決すると原氏は考えている。いきなり外部の方が妻籠宿内に住んだり、店舗経営をはじめののではなく徐々に馴染んでいくことが大事であり、安易に人に貸し出し、ビルが突然建ってしまうということではあってはいけない。

5) お店のルールと周辺宿場との違い

店舗営業に関してはまちの規則を守って行ってほしいと原氏は考える。看板の大きさや、のれんの大きさなども決められている。妻籠は例えば大吉裏の鉄塔が茶色にされているなど景観色にもこだわっている。

近隣の馬籠宿は、景観に関する規則内容が妻籠宿に比べて規制緩いのでお土産屋さんは大きくなるし、看板も自由にできる。妻籠宿は景観保全や



写真 11. 外国語表記の注意書き

外国人の宿泊者のために英語表記に注意書きが所々にある。



写真 12. 御手洗い

妻籠全体で下水道整備が行われた際にきれいになった。



写真 13. 檜のお風呂

宿泊客に好評で、お風呂内にも外国語の注意書きが書いてある。

各お店の利益を平等にしたいので土産屋にも規制がある。妻籠宿の住民が馬籠宿に行くと、人が居なくお店が閉まって看板がでていない夜間の方が景観がいいと感じている。

6) 妻籠の空き家状況

空き家を活用しようと思っても、内部の老朽化が進んでおり、個人で改修などするには大変な状態である。妻籠の規制でも、建物内部は特に規制がなく改修を行って良いので、財団などがきちんと整備していつでも入れる状態にした方が使いやすいのではと考えている。

7) 少子化と周辺環境

子ども世代が減少している。地域に妻籠小学校があったが、統合され、妻籠の地区の子供は南木曾駅の近くに南木曾小学校にスクールバスで通っている。妻籠小学校の建物は一部保存をして取り壊しを行い、跡地は2021年東京オリンピックの聖火のスタートとゴール地点に利用されている。

保育園も妻籠地区にあったが、南木曾駅の方面に統合されてスクールバスで通っている。環境は妻籠が一番良く、南木曾駅方面になってしまうと、一本、道路をでただけですぐ車道になってしまう。保育園の児童たちが安心して周辺を散歩できるような場所が妻籠の方が多く存在した。

8) Uターン者や外部との関わり

Uターンの方はあまり居ないが、妻籠宿の通りから少し離れたところに、農業が好きで大阪からの移住した方や秋田から来て妻籠の人と結婚し住んでいる方もいる。子育て世代の移住は厳しいかもしれない。車があれば活動圏が広がるので不便はないと思うが、例えば都会では身近にあるコンビニは、歩いて1時間かかる。

南木曾町に来た地域協力隊でやる気のある人たちがゲストハウスや喫茶店を運営している例もある。妻籠には外部からの人や活力が必要であり、観光協会も独立したばかりで実績が少ない。妻籠宿内のお店では、ありふれた土産だけではなく、他の地域のように地元の特産のお酒や味噌などの専門店もできれば、まちとしての特徴もでてくるのではないかと考える。妻籠宿では呼び込みをし

ない、道路に店の商品を出さない規制があるように、景観と収入の共立が課題である。動態としての宿場街の景観が重要。

また、外部の方を宿場内に招くことは関係作りとして良い点だが、まちや宿場を変えていくには時間や労力もかかるため、協力者が必要になる。居住のための補助の整備や収入が少ない方が来れなくなってしまうなど外部の方を呼び込むには長期的な生活も考える必要性がある。補償がないといけませんが補助金を誰が出すなど、課題は多く残る。

9) 大吉からみた妻籠宿

妻籠の三原則の一つである、「壊さない」は守ったほうがよいと考えている。「売らない、貸さない」の部分は改善しないと空き家が増えるだけになってしまう考え、やる気のある人に来てもらいたい風をいれたい。例えば奥ジャパン、好日珈琲などがある。

南木曾町の田立に「Zenagi (ゼナギ)」という体験をセットにしている古民家改修の高級宿泊施設がある。外国人の方をターゲットにしている。よそから来られた方が行っている。このような事例のように、妻籠宿で空いている家を利用したほうがいいのではないかと考えている。空き家ではないが、お盆やお正月など限定した時期のみ利用され、別荘化している建物も宿場内に何件か点在する。

5. 施設建物について

1) 御宿大吉・妻籠宿で成功させたところ、他とは違うところ

御宿大吉では、部屋のドアを障子から鍵付きにした点は宿泊客に好評である。営業当初は全ての部屋が障子で、古き良き日本の家屋を感じられたがプライバシーのためにも改修を行った。2階の食事会場は障子のままに残している。妻籠宿内では、ふすまで仕切られている宿泊施設もまだ存在する。今では妻籠宿の撮影などに制限があるが、昔はドラマの撮影が多く行われていた。

妻籠全体での成功例として下水道の整備が行われたことが挙げられる。下水管が通ったタイミングで御宿大吉の水回り設備の整備も行った。

2) 改善したいところ

部屋が狭いのでどうにかしたいとは思っているが、敷地いっぱい建てているのでなかなか難しい。

3) 工夫をしている点

外国人宿泊者のために、建物内の至る所に多国語で表記をしている。文化の違いでお風呂の栓を抜いてしまう宿泊者もあり、浴槽付近に注意書きもしている。外国人宿泊者は欧米人が多く、会話ではなんとなく意味が伝わっているが、苦勞をする場合もある。

また、情報発信のために SNS は Facebook を用いて情報発信を行っている。

(以上、作成者：東京電機大学 森野耕司，
2021.04)



写真 14. 奥ジャパン事務所

イギリス系の旅行代理店「奥ジャパン」が妻籠内に支店を設け、ツアーのサポート等も行っている。